

今週の為替相場見通し(2018年3月12日)

総括表		注	先週の値動き		今週の予想レンジ
			レンジ	終値	
米ドル	(円)		105.35 ~ 107.05	106.82	105.50 ~ 108.60
ユーロ	(ドル)		1.2269 ~ 1.2447	1.2305	1.2100 ~ 1.2400
(1ユーロ=)	(円)		129.35 ~ 132.01	131.44	129.50 ~ 132.50
英ポンド	(ドル)		1.3767 ~ 1.3929	1.3844	1.3700 ~ 1.3950
(1英ポンド=)	(円)	*	145.09 ~ 148.55	147.92	146.00 ~ 149.50
豪ドル	(ドル)		0.7726 ~ 0.7854	0.7846	0.7700 ~ 0.7950
(1豪ドル=)	(円)	*	81.49 ~ 83.90	83.82	82.00 ~ 84.50

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

為替市場第一チーム 森田 大貴

(1)今週の予想レンジ: 105.50 ~ 108.60 円

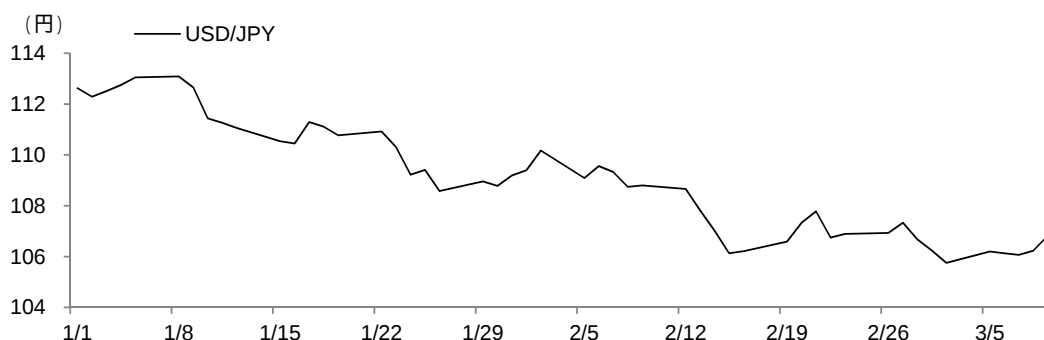
(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は週後半に上昇する展開となった。週初5日に105円台半ばでオープンしたドル/円は一時週安値となる105.35 円をつけたが、ライオン米下院議長が鉄鋼やアルミニウムの輸入に関税を賦課するという前週のトランプ米大統領の発言に反対を表明すると、貿易摩擦に対する懸念が後退し106円台前半まで上昇。6日は前日の流れを引き継ぎ堅調に推移していたが、参議院における黒田日銀総裁の所信聴取で19年度以降のテーパリング開始を明確に否定しなかったことが材料視され105円台前半まで下落。その後、北朝鮮との首脳会談を4月末に実施との韓国大統領府の発表を受けリスク回避姿勢が弱まり106円台前半まで反発。7日の朝方に米国家経済会議(NEC)のコーン委員長が辞任との報に105 円台前半まで急落する場面が見られたが、サンダース米報道官が鉄鋼やアルミニウムに対する輸入制限についてカナダとメキシコが除外される可能性を示唆すると貿易摩擦への恐れが弱まり、ドル/円は106円台前半まで値を戻した。8日は一時106円を割れる場面もあったが、トランプ大統領が署名した輸入関税の発動を命じる文書ではカナダとメキシコは適用外とされ、米国の同盟国も適用外となる可能性が示唆されるとドル買いの流れが強まり、106 円台前半まで底堅く推移。9日東京時間もこの流れが継続し、106 円台後半まで上値を伸ばす展開。更に、米2月雇用統計は、非農業部門雇用者数が市場予想を大幅に上回ったことを受けて一時週高値となる107.05円をつけた。しかし、平均時給上昇率が予想を下回ったことからすぐに反落。その後も株価が大きく上昇する中でも上値を伸ばすことができず106.82円で越週した。

今週のドル/円相場は底堅い展開を予想。先週はリスクオフ局面でも前週3月2日の安値を更新することなく、105円台で下値を切り上げる格好となっている。下値では国内外からの旺盛な押し目買い需要が確認されており、ドル/円の下攻めにも一服感が出よう。米2月雇用統計は、非農業部門雇用者数が市場予想を大きく上回った一方で、注目の平均時給上昇率が予想を下回り、ドル買いの勢いは出づらいつ状況ではある。しかしながら、過度な貿易戦争懸念の後退や、米朝首脳会談合意も相まって、株価がサポートされている状況下、クロス円の買いにもサポートされ、ドル/円は引き続き底堅い動きとなるだろう。なお、今週は、13日(火)に米2月消費者物価指数(CPI)、14日(水)に米2月小売売上高の発表が予定されている。

(3)先週までの相場の推移

先週(3/5~3/9)の値動き: 安値 105.35 円 高値 107.05 円 終値 106.82 円



2. ユーロ

(1) 今週の予想レンジ: 1.2100 ~ 1.2400 129.50 ~ 132.50 円

(2) ポイント[先週の回顧と今週の見通し]

先週のユーロ/ドルは週初に下落したものの、その後は上に行き来いの展開となった。週初5日、1.23台前半で取引を開始したユーロドルは4日に行われたイタリア総選挙が中道左派、中道右派、ポピュリズム政党のいずれも過半数に届かなかったことから週安値1.2269まで下落。しかし独第2党、社会民主党(SPD)がキリスト教・社会同盟(CDU・CSU)との大連立に合意したことが意識されるとユーロ/円の上昇に連れ高の展開となり、1.23台前半まで反発。6日、スウェーデン中央銀行のオルソン副総裁が利上げを開始すべきとの見解を示したことからスウェーデンクローナが急騰、ユーロは連れ高となり1.24台まで続伸し、7日には週高値1.2447まで上昇した。8日、ECB政策理事会後の声明文で「必要に応じてQEの規模拡大」との文言が削除されたことから一時1.2446まで上昇するも、その後のドラギ総裁の会見でハト派な姿勢が示されたことから1.2298まで急落。9日、米2月雇用統計が強弱入り混じる展開となり、1.23ちょうどを挟んだ推移となり、同水準で越過した。一方、ユーロ/円は週初5日に130円台前半で取引を開始、イタリア政局への不安から週安値129.35円まで下落するもすぐに反発。6日は、地政学リスクの後退から円売りの流れとなり、週高値132.01円まで続伸。8日、ECB政策理事会の結果を受けて130.53円まで下落するも、9日にはリスクオンの展開から131円台後半まで上昇し、131円台半ばで越過した。

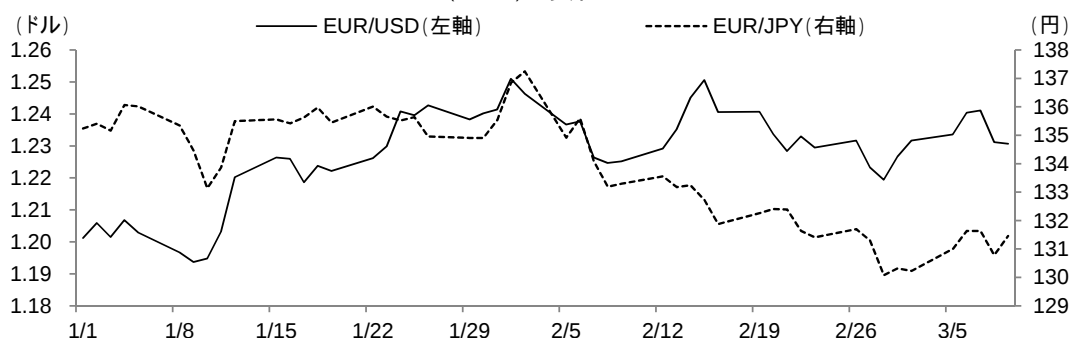
今週のユーロ相場は軟調推移となろう。先週開催されたECB政策理事会ではフォワードガイダンスの修正が実施、緩和バイアスが削除された。しかしその後のドラギECB総裁の会見では「インフレについて勝利宣言はまだできない」「他の政策変更はあまり議論しなかった」など総じてハト派な発言が目立っており、ユーロ高を過度に警戒している印象を受けた。また現在のQEは2018年9月を期限としているが、ECB内部では同額で2018年12月までの延長を想定しているとの話も出ている中、上値を試す展開にはなりにくいだろう。またトランプ政権は発効した鉄鋼やアルミへの関税に関して同盟国への適用を除外する可能性を示唆するなど当初よりも態度を軟化させている。また、北朝鮮情勢を巡ってはトランプ米大統領と金委員長が5月までに会談することに同意したと発表されており、米朝間を巡る地政学リスクが後退していることからドルは買われやすい地合いになると予想する。今週のユーロ相場はECB政策理事会の結果を受けたユーロへの下落圧力に加え、ドル買いの流れが加わることでユーロ相場は軟調に推移しよう。今週の重要指標としては14日(水)にユーロ圏1月鉱工業生産、16日(金)にユーロ圏2月CPI確定値の発表が予定されている。

(3) 先週までの相場の推移

先週(3/5~3/9)の値動き:

(対ドル) 安値 1.2269 高値 1.2447 終値 1.2305

(対円) 安値 129.35 高値 132.01 終値 131.44



(資料) ブルームバーク

3. 英ポンド

欧州資金部 伊藤 圭祐

(1) 今週の予想レンジ: 1.3700 ~ 1.3950 146.00 ~ 149.50 円

(2) ポイント[先週の回顧と今週の見通し]

先週の英ポンド相場は米国の輸入関税措置及び北朝鮮関連のヘッドラインに左右される展開ながら概ねレンジ内での推移となった。週初5日対ドル1.3800レベルで開始した英ポンドは前週の米国による輸入関税措置導入の流れを引き継ぎ上値重く推移したものの、BREXITの移行期間について合意が近づいているとのメイ首相の発言や米株式相場の反発を契機として上昇に転じる展開。6日に北朝鮮の非核化に向けた動きが報じられるとリスクオンの流れから英ポンドも対円主導で更に上昇し対ドルで1.39台を回復。翌7日は米NECのコーン委員長辞任によりオープン直後はリスクオフの展開。その後もEU高官からのBREXIT牽制発言等、EU・英国間の交渉平行線が嫌気され対ドルで1.3850割れへと売られる局面も見られた。8日にはECB声明文で緩和バイアスが削除されたことからユーロの上昇に追随する形で一旦買われたものの、その後のドラギ総裁の会見において先々のインフレ見通しが若干下方修正されたこと等を受け反転。ユーロの売りに巻き込まれる形で英ポンドも1.3800レベルまで売り込まれる展開に。9日は米・北朝鮮が対話開始に向けて合意間近とのヘッドラインでドル円が107円近辺まで急伸する中、英ポンドは雇用統計待ちで非常に静かな展開。米雇用統計は注目されていた平均時給こそ予想を下回ったものの、労働時間指数の上昇を考慮すれば全般的に非常に堅調な内容。発表後、市場がリスクアセットの買いで反応する中、英ポンドは対円主導で上昇。ドル円107円にまとまったオプションの期限があったため上値こそ抑えられたものの、対円148.00、対ドル1.3850レベルで越週。

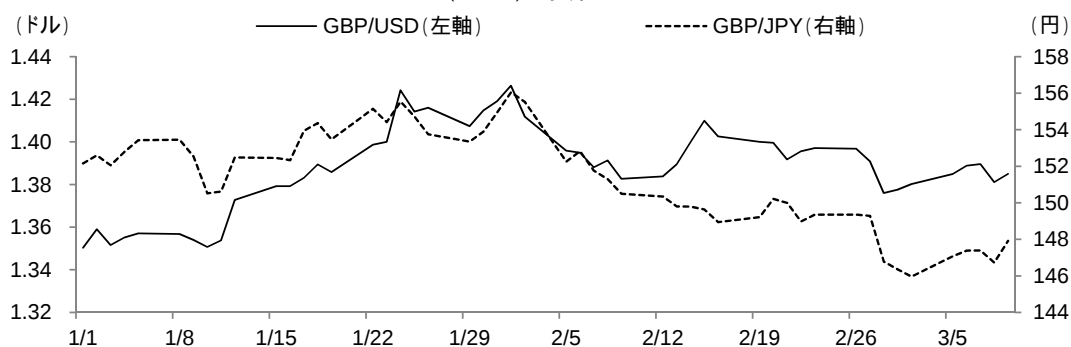
今週の英ポンド相場は対ドル・ユーロで上値限定のレンジ相場を見込む。先週の英ポンド相場は独自での材料に乏しく主に対外要因に振られる展開であり、英ポンドが明確に1.40を抜けるには今週も引き続き材料不足であると思われる。今週は国内では目立った指標は無く、BREXIT関連では英国側がEU側と急いで合意する必要はないとのスタンスを示している以上、短期的にポジティブなヘッドラインは期待できず、寧ろEU高官からの更なる牽制発言を嫌気して売り材料が提供される可能性も。また、先週末の米雇用統計を受け、21日(水)に控えるFOMCでは利上げペースの変更は示唆されないとの見方が大勢を占めているものの、直近のFED高官の発言はミックスでありFOMC通過まではドルの先行きにも予断を持ちづらい状況。FOMC通過後、緩やかな利上げペースが維持されるとの見方が固まった際にはゴルディロックス的なリスクオン相場となり対円主導での上昇トレンドが形成される可能性は否定できないが、ごく短期的には上値余地は乏しいと考えている。なお、北朝鮮関連の材料で一時的にリスクオンの動きが再現される可能性は十分に想定されるものの、トレンドを形成する材料には成り得ないとの見立てから関連ヘッドラインで想定レンジの上値近辺を試す際は積極的に売り仕掛けたい。

(3) 先週までの相場の推移

先週(3/5~3/9)の値動き:

(対ドル) 安値 1.3767 高値 1.3929 終値 1.3844

(対円) 安値 145.09 高値 148.55 終値 147.92



(資料) ブルームバーク

4. 豪ドル

アジア・オセアニア資金部シドニー支店 山口 美紀

(1) 今週の予想レンジ: 0.7700 ~ 0.7950 82.00 ~ 84.50 円

(2) ポイント[先週の回顧と今週の見通し]

先週の豪ドル相場は、0.77後半から0.78半ばに上昇。5日、豪ドルは0.77半ばでオープン。ライアン米下院議長が鉄鋼やアルミニウムの輸入に関税を賦課するという前週のトランプ米大統領の発言に反対を表明すると、貿易摩擦に対する懸念が後退し、リスク通貨の豪ドルは0.77後半に小幅上昇。6日、北朝鮮との首脳会談を4月末に実施との韓国大統領府の発表を受け市場のリスク回避姿勢が弱まり、豪ドルは0.78前半に続伸した。また、豪1月小売売上高(季節調整値)は前月比+0.1%増と、市場予想の同+0.4%増を下回ったものの、豪ドルへの影響は限定的だった。衣料品やデパートの売り上げが不振だったことが、全体の伸びに影響した。7日、豪2017年10~12月期実質国内総生産(GDP)は前期比+0.4%増、前年比+2.4%増と、7~9月期から鈍化。悪天候で輸出が影響を受けたほか、住宅や資源分野への投資が落ち込んだことも大きな要因となった。一方、政府支出は予想を上回り、家計消費も回復。市場予想を下回る豪経済指標から、豪ドルは0.77後半に反落。その後、サンダース米報道官が鉄鋼やアルミニウムに対する輸入制限についてカナダとメキシコが除外される可能性を示唆すると貿易摩擦への恐れが弱まり、再び豪ドルは0.78近辺に小幅反発した。8日、結局トランプ大統領が署名した輸入関税の発動を命じる文書ではカナダとメキシコは適用外とされた。また、豪1月貿易収支(季節調整値)は+10億5,500万豪ドルの黒字(予想:+1億6,000万豪ドル黒字)となった。輸出はおおむね堅調に推移し、特に非通貨用金製品が9億豪ドル相当回復したことが、黒字幅の拡大に大きく寄与したものの、豪ドルは0.78を挟んでの横ばい推移だった。9日、注目の米2月雇用統計では、非農業部門雇用者数が前月比+31.3万人と市場予想(同+20万人)を大幅に上回り、2016年7月以来の30万人を上回る大幅増加となった。これを好感して、NYダウ平均等の米株が大幅上昇し、リスク選好の動きが強まった。リスク通貨の豪ドルも0.78半ばに上昇し、引けた。先週の豪ドル/円は82円から83円後半に上昇。5日、豪ドル/円は84円近辺でオープン。前週のトランプ大統領の輸入関税に関する発言から、ドル/円が週初安値105.35円を付けると、豪ドル/円も81.49円と2017年6月以来の安値を付けた。しかし、6日に入り米朝首脳会談の報道が流れると、ドル円上昇から、豪ドル/円も82円半ばに反発。その後、豪ドル、ドル/円は共に揉み合い推移し、豪ドル/円も82円台での推移が続いた。その後、9日、良好な米雇用統計を受けて、ドル/円が上昇する動きに豪ドル/円も連れ高となり、83円台後半に上昇して越週した。

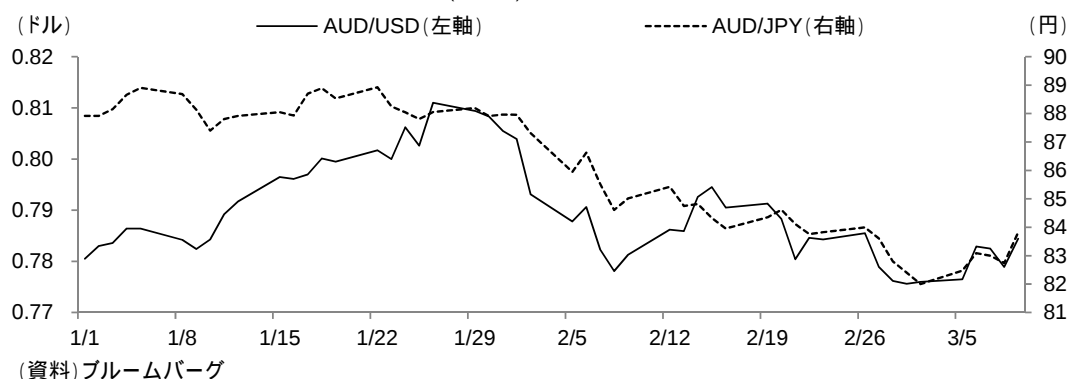
今週の豪ドルは横ばいを予想する。先週の豪ドルは0.77~0.78での揉み合いの時間が長く、テクニカル的には引き続き200日長期移動平均線(0.7798)を挟んで推移しており、明確な方向感(トレンド)が出ていない状況が続く。今週は豪州の重要経済指標の発表少なく、13日(火)に発表される米国の2月消費者物価指数(CPI)に注目している。米国のインフレ圧力が意識される強い結果となれば、米国の長期国債利回り(長期金利)が一段と上昇する可能性がある。金利上昇からの素直なドル買い、または金利上昇を嫌気した米株安等のリスク回避の動き、どちらが出るか留意したい。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(3/5~3/9)の値動き:

(対ドル) 安値 0.7726 高値 0.7854 終値 0.7846

(対円) 安値 81.49 高値 83.90 終値 83.82



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。